



宝永小だより

No. 26

福井市宝永小学校
令和7年3月24日

学校教育目標:ひとり立ちできる子 ~心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成~
めざす児童像:進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

令和6年度の修了にあたって



<渡り廊下から見える白山>

本日(3月24日)の修了式をもって、令和6年度の教育活動が全て修了しました。今年度も、子どもたちの笑顔に満ちた、活気溢れる教育活動を進めることができました。子どもたちは、今年度の学習や活動を通して、大きく成長しました。そして、無事に、本日を迎えることができたことを大変、嬉しく思っています。保護者の皆様や地域の皆様には、この1年間、本校の教育活動に対し、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

明日から春休みです。この時期は、開放感から何かと気の緩む時期でもあります。規則正しい生活を心がけ、新年度からスタートする新しい学年での生活に向けて、進級の準備をしてほしいと思います。教職員一同、新年度に向けて、しっかりと準備をし、4月8日(火)に、子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

3年生 熟成した味噌について学ぶ 2月12日(水)

子どもたちが11月に仕込んだ味噌(本紙No. 19に掲載)を(株)米五で熟成させていただき、出来上がった味噌が、子どもたちの元に届きました。他に、8種類の味噌も持ってきてくださいました。

子どもたちは、8種類の味噌を試食することで、それぞれの味噌の違いについて学びました。まず、麴の違いによる米味噌・麦味噌・豆味噌の比較では、色の違いはもちろんのこと、香りの違いや味の違い、舌触りの違いを感じ取っていました。そして、子どもたちは、互いに、好みを語り合っていました。次に、辛口・甘口の味噌を比べました。子どもたちは、色の違う味噌を口に入れる度に、「うわあ。」と声を発しながら、味の違いを感じ取っていました。さらに、熟成期間の違いとして、1ヶ月・9ヶ月・2年の味噌を比べました。熟成が進むにつれて、色が濃くなるだけでなく、味や香りも変化していることを確認することができました。子どもたちは、8種類もの味噌の違いを体感するとともに、各自の味噌の好みの違いにも驚いていました。



<8種類の味噌を試食>

最後に、グループごとに仕込んだ味噌容器の蓋を開けると、味噌の良い香りが多目的室中に漂いました。子どもたちは、持ち寄った容器などに小分けして、持ち帰りました。

国語の「すがたをかえる大豆」の学習からスタートした味噌との出会いが、教科書で留まらずに、実際に様々な体験をして、味噌の世界の奥深さやおもしろさを知る学びとなりました。

<3年児童から米五の皆さんへ>

みそのことや作り方を教えてください、ありがとうございました。きのう、自分が作ったみそで、みそしるを作りました。とてもおいしかったです。



<完成した味噌と対面>

4年生 総合「宝永やさしさ探検たい」の学びを通して



<宝永公民館に掲示>

子どもたちは、1年間、総合的な学習の時間に、「宝永やさしさ探検たい」をテーマに、「福祉」について学習を進めてきました。福井市社会福祉協議会の方の協力を得て、ガイドヘルプ体験をしたり、街歩きをして「みんなにやさしいまちづくり」になっているかを確認したりしました。その後、ワークショップで意見交換し、自分たちにできることを考えました。さらに、目・耳・足の不自由な方や高齢者の方との交流会を開催し、自分たちが地域のために活動しようとしていることを提案し、実際に当事者の方の声を生で聴かせていただきました。最後に、自分たちで考えたアイデアを形にしました。その作成したポスターなどの掲示を企業や店に依頼し、グループごとに訪問して、実際に掲示していただきました。ポスター、助け合いカード、マップ、手作りすごろく、チラシなどの制作物を、市役所や店舗で、ご覧いただければと思います。

福井市社会福祉協議会ボランティアセンターの「ボランティア情報」最終号にも、この取組が紹介されました。

<4年児童の振り返り>高齢者の方やにん知しょうの方は、とてもがんばっているということが分かりました。それをふまえて、高齢者の方やにん知しょうの方がよりよくらせるといいなと思いました。わたしたちが作ったちらしを見て、高齢者の方の不自由なところや、にん知しょうの方のことを少しでも知ってもらえるとうれしいなと思いました。「宝永きらめき」に行って、すごろくや手遊びをして、「楽しい。」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。

<4年児童の振り返り>わたしは、この1年間で、いろいろな人が協力してくれたからこそ、ここまでこれたと思っています。また、わたしは、これから不自由な人がこまっていたら助けたいと思いました。大人になっても続けていきたいです。「宝永やさしさ探検たい」は、いろいろな人に役立ったと思いました。市役所のしょうがい福祉課に行ったときは、きんちょうしましたが、成功したときは、すごうれしかったです。

第132回卒業証書授与式 3月11日(火)

卒業証書授与式が挙行され、37名が本校を巣立ちました。卒業生は、多少緊張しながらも、晴れ晴れとした表情で卒業証書を受け取り、たくましく、凛々しい姿を見せてくれました。そんな卒業生の姿を1~5年生の子どもたちと教職員、保護者の皆様が見守りました。在校生は「大空をむかえる朝」を、卒業生は「次の空へ」をそれぞれ合唱し、呼びかけとともに、思いを伝え合いました。

その後、卒業生は、教室で担任と別れを惜しまました。そして、教職員が見送った後、児童玄関前で写真撮影をするなどして、笑顔で学び舎を後にしました。卒業生の皆さんが、さらに大きく飛躍されることを祈っています。



<卒業を祝う掲示物>

えがお学級 宝永喫茶「スマイリー」開店 3月14日(金)



<「こゆっくりどうぞ。」>

校庭の畑で収穫したサツマイモを使って、事前に、子どもたちは「さつまいもパウンドケーキ(チョコ・抹茶・プレーン)」を調理しました。そして、念入りに準備をしてきた子どもたちは、この日は、「スマイリー」の店員さんになり、上手に対応してくれました。メニューを渡す・注文を取る・「さつまいもパウンドケーキ」と飲み物(コーヒーか紅茶)を運ぶ・レジで会計をする・・・など、どの仕事も、責任をもってやり遂げていました。丁寧な言葉を使い、お客さんとしての教職員に、笑顔で対応する子どもたちは、自信に満ち溢れていました。

子どもたちの行灯に灯がともる 3月15日(土)・16日(日)

名勝 養浩館庭園で、「第25回養浩館庭園ライトアップ」が開催されました。4・5・6年生の子どもたちが作った行灯のライトアップも行われました。ろうそくの点いた行灯が、庭園を柔らかく優しい光で包んでいました。

初日の後半と2日目は、あいにくの雨でしたが、多くの方の来場がありました。行灯に、4年生は「将来の夢」、5年生は「9年後の宝永の未来」、6年生は「8年後の福井の未来」をテーマに絵を描きました。ライトアップを見に来た子どもたちは、自分の行灯を見つけると嬉しそうに家族に伝え、絵の説明とともに夢についての会話が弾んでいました。また、子どもたちの行灯に描かれている北陸新幹線や恐竜の絵を見つけ、多くの幼児が、「新幹線だ!」「恐竜だ!」と歓声を上げていました。そして、保護者の皆様からの「上手だね。」というお褒めの言葉が多く聴かれました。300基ほどの行灯の優しい光が庭園を照らし、趣のある美しい光景に心が和みました。



<点灯した子どもたちの行灯>

この日までの準備はもちろんのこと、当日も寒い中、行灯の灯の管理をしていただいた宝永まちづくり委員会や各種団体の皆様、本当にありがとうございました。改めて、このイベントが地区の行事として大事にされていくことを願っています。

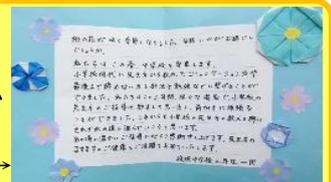
教職員の定期異動 =お世話になりました=

令和7年度教職員定期異動に伴い、下記の教職員が本校を離れます。それぞれ、在職期間の長短はありますが、保護者の皆様や地域の皆様のご理解とご協力をいただき、充実した教育活動に携わることができました。異動する教職員一同、紙面をお借りして、お礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

<退職>

<転任>

*本校を卒業した進明中学校の3年生が、右記のような素敵なメッセージカードを届けてくれました。「...私たちはこの3年間、様々な場面で、小学校の先生方のご指導や励ましを思い出し、前向きに頑張ることができました。...あの頃の温かいご指導に心より感謝申し上げます。...」と書かれていました。文面からも、進明中学校で、充実した3年間を過ごしたことが伝わってきました。嬉しい限りです。今後の益々のご活躍を祈念しています。



<メッセージカード>

*新年度に向けて、子どもたちの教室移動と下足箱移動を完了しました。新しい学年に進む子どもたちの4月からの学びに期待するとともに、子どもたちが笑顔で過ごせるような教育活動を進めていきたいと思えます。次年度も、どうぞ、よろしくお願いいたします。

*4月8日(火)に、新任式・始業式、入学式を行います。入学式には、2~6年生の子どもたちも参加します。

*新2年生は、転入により、新年度から、2クラス編成になります。

*「心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成 ~児童・教職員の『居場所づくり・絆づくり』を通して~」という題で、本校の教育実践を論文にまとめ、「日教弘教育賞」教育実践研究論文募集に応募したところ、「日教弘本部 奨励賞」を受賞しました。3月14日(金)に、賞状等の贈呈がありました。



<表彰状>

*「宝永小だより」も、この No. 26が、本年度の最終号となりました。これまで、お読みいただき、ありがとうございました。